

# 石川県立看護大学大学院看護学研究科の現状と展望

金川克子 浅見 洋

## 概要

本稿は石川県立看護大学大学院看護学研究科開設の背景、経緯、現状を紹介し、その課題と展望について著者たちの考えを述べたものである。

2004（平成16）年4月に開設した本学の大学院修士課程は、2領域5研究分野（看護デザイン、コミュニティケア、子どもと家族の看護学、成人看護学、老年看護学）からなり、日本看護協会が認定する4分野の専門看護師（地域看護、小児看護、がん看護、老人看護）の教育課程基準に対応した科目をも開講している。また本邦初の名称である看護デザイン分野は、看護学の新たな領域の創造をめざす本大学院独自の取り組みである。

修士課程は2006（平成18）年4月に博士課程への課程変更にもなっており、博士前期課程となり、より一層の研究・教育内容の充実に努めることが求められている。研究指導を担当する教員の研究・教育能力の向上、特色ある研究課題を持つこと、専門看護師育成のための教育課程の再編成など、求められる課題は多いが、開設当初の理念をめざして全学的に取り組むならば、本学の大学院には明るい展望が開けている。

**キーワード** 看護系大学院、大学院増加の背景、看護研究、専門看護師、看護デザイン

## 1. はじめに

石川県立看護大学は「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性と共に、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」ことを教育理念として、平成12年4月に開学した。現在、教育理念に基づいて、全学で豊かな人間性と専門的知識を兼ね備えた看護職の教育に取り組んでいる。特に、看護専門領域、健康科学領域、人間科学領域が連携して看護専門職にふさわしい人格と教養の形成を図ると同時に、地域社会、病院、保健施設、福祉施設、教育施設など、看護実践の場における系統的な実習を通して、実践力を備えた人材の育成にも精力的に取り組んでおり、平成16年3月には最初の卒業生を送り出した。

近年、少子・高齢化の進展、医療技術の高度化、疾病構造の変化、健康意識の高揚などを背景に、保健、医療、福祉に対する社会的ニーズはますます高度化、複雑化、多様化してきている。こうした諸分野の中心的役割の一端を担う看護職においても、さらに質の高い看護の諸問題に対応できる高度な知識・技術とともに、研究者的資質を有する人材の育成が緊急の課題となっている。このため、本学では、学部で蓄積されてきた成果を機能

的に充実した大学院組織の中でより発展・展開させることによって、各専門分野の教育・研究成果を時代と地域の要請に応じ得るものとなすために、平成16年4月に「大学院看護学研究科修士課程」を開設した。

大学院設置については、本学の基本構想を定めた「看護大学基本構想委員会報告書」（平成7年度策定）にもすでにその必要性が提言されており、大学設置の基本構想にそった設立当初からの念願であった。<sup>1)</sup>

具体的な設置準備は、当初、医療現場から要望の強い、高度な専門職養成の要請に答えるために専門看護師（Certified Nurse Specialist:CNS）の養成をはかること、並びに地域貢献も含めて広汎な看護学の発展に寄与する看護学研究者・教育者を育成することを2つの基本的目標として出発した。その基礎資料となったのは、平成14年度8月～10月にかけて実施した在学生、教職員、県内の看護関係諸団体、医療・福祉諸施設に対するアンケート調査であった。この調査では、学内のみならず、県内医療現場にはより高度な専門職の養成へのニーズが極めて強く存在することが明らかになった。また、学生・教職員・看護職者を問わず継続教育、リカレント教育、キャリアアップへの要望が高いことも確認された。

2年間にわたる設置準備を経て平成16年4月に開設された大学院修士課程は、平成18年3月に最初の学位授与式を挙げる。さらに、同年4月には新たに博士後期課程を開設することによって、現在の修士課程を博士前期課程に変更することが文部科学省によって認可されている。それによって修士号の取得者等に、より一層高度な研究、教育の機会を提供すると同時に、将来にわたって学部教育、大学院における看護研究と教育を担い得る研究者・教育者を育成する計画である。

2. わが国における看護系大学院増加の背景

1990年以前には、我国で看護学科をもつ大学は9校、修士課程をもつ大学院は4校、博士課程をもつ大学は2校にすぎなかった。しかし、90年代後半以降、大学の増設が相次ぎ、それらの大学が学部の完成年度を迎えるに応じて大学院が開設されることとなった。図1に示されているように近年の大学院数の増加は著しく、2005年度において修士課程は73大学、博士課程は28大学が設置している。

少子化の進展にともなって大学就学人口が減少し、経営的な問題から大学倒産さえもが現実味を帯びた問題となりつつある今日、昨今の看護系大学、大学院の急激な量的拡大は他の分野に比して極めて特徴的な現象である。2001年までに開設された看護系大学（87校）の83.9%（73校）が4年ないしはそれ以降に大学院修士課程を設置し、2003年度までに開設された修士課程を持つ大学（59校）の47.6%（28校）が2年ないしはそれ以降に博士課程への課程変更を行っている。しかし、この数年、大学院増加が著しい中で博士課程への

変更は必ずしもスムーズになされていない。その最大の理由は博士課程を担当する研究指導教員の確保が困難なためと思われる。（表1、図2）

看護系大学の増加の社会的要因の中にはまず看護職の不足と医療の高度化、専門化が挙げられよう。例えば、2005年12月26日に公表された厚生労働省「第6次看護職員需給見通しに関する検討会」（座長＝宮武剛・埼玉県立大学教授）の最終報告によれば、平成18年の看護職員の供給数は127万2400人で4万1600人の不足となる見通しである。<sup>3)</sup> さらに、この報告書に対する日本看護協会の意見として、新卒・中堅看護職の離職防止、潜在看護職の職場復帰とともに、「質の高い看護職の養成・確保」が提言されている。<sup>4)</sup>

また、看護系大学院の増設ラッシュの背景には、看護における大学教育の拡大にともなって看護教育に従事する大学教員・看護学研究者の養成を行う修士課程、博士課程の充実が緊要の課題になっているという点がある。また、専門職大学院の制度化に見られるように、大学院教育が研究者・教育者の養成という従来からあった役割に加えて、高度職業専門人の養成という新たな役割をも担うようになってきたということである。そうした増設を加速させたものは、大学就学人口の減少にともなって大学全体の学生数を減少することがないように、学部の定員を大学院の定員にシフトしようとする各大学の経営戦略がある。大学院の充実は分野を超えた大学の生き残り策の一つであるが、それによって生じてきた大学院教育の拡充、諸分野の専門の高度化・深化も看護系大学院の増設を加速した一因であると考えられる。

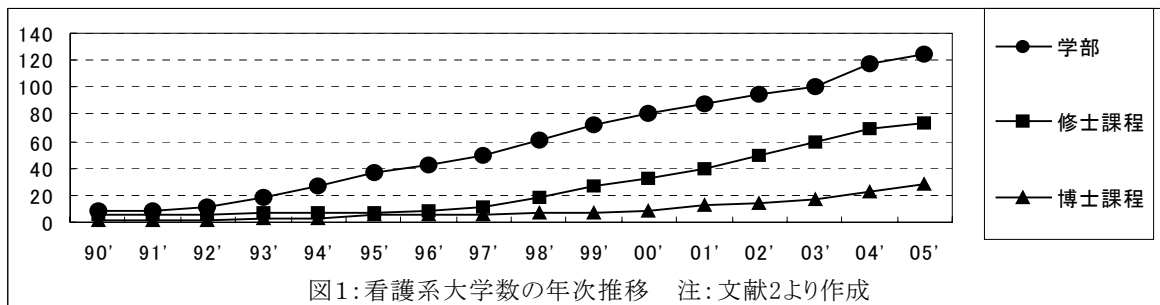


表1：看護系大学の学科，修士課程，博士課程の年度別新規設置数 注：文献2より作成

年度	-89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	合計
学科	9	0	0	3	6	9	10	6	6	12	11	9	6	8	6	17	7	125
修士	4	1	0	0	2	0	0	1	4	7	8	5	8	9	10	11	3	73
博士	2	0	0	0	1	0	2	0	1	1	0	2	4	1	3	6	5	28

### 3. 本学大学院の概要

#### 3.1 目的

本学大学院の修士課程の目的は、設置準備の審議過程で、当初考えられた2つの基本的目的に、地域における大学院の機能を強調する3つ目の目的が追加された。

##### (1) 看護学教育を支える教育・研究職の育成

学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

##### (2) 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職の育成

実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師 (CNS) の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与できる高度専門職業人を育成す

る。

##### (3) 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部段階での社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、適宜適切な社会人の再教育の場を提供する必要がある。本学大学院は、このような向上心旺盛な学部卒業生、社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

#### 3.2 教育課程編成の考え方とその特徴

看護学研究科看護学専攻は、2専門領域及び5研究教育分野で編成した。(図3)

「看護デザイン分野」と「コミュニティケア分野」の2つの研究教育分野から構成される「健康看護学領域」では、地域で生活するあらゆる健康レベルの人々またはその家族に対する総合的ヘルスケアをデザインするための高度な理論・方法・実践能力をもった人材を養成する。

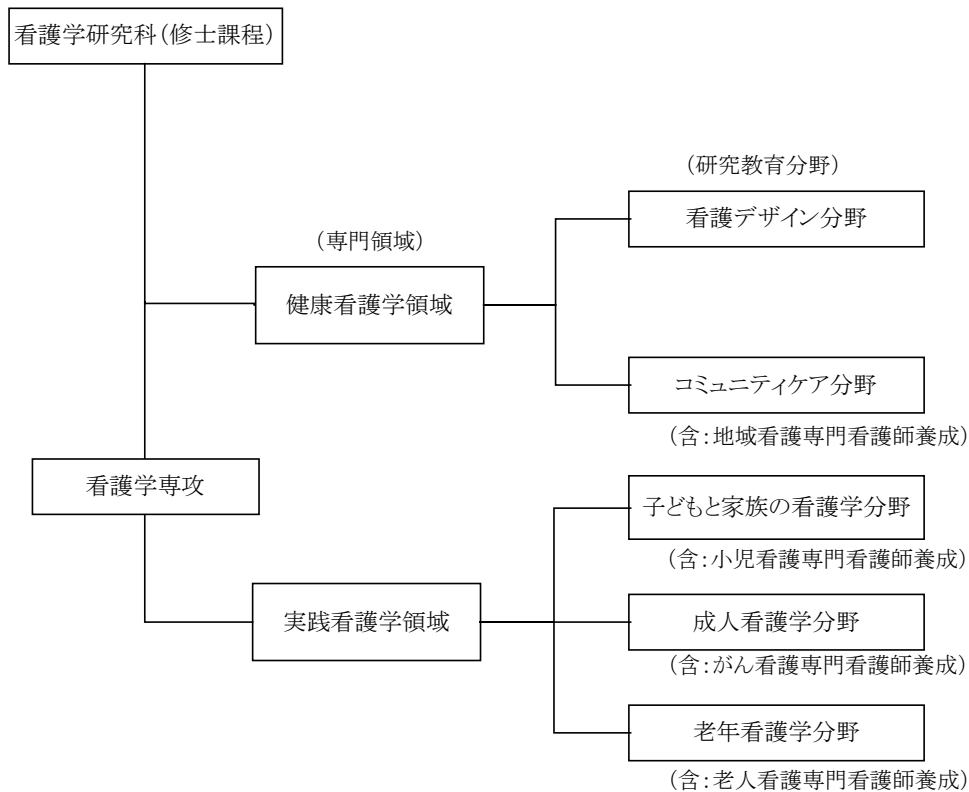


図3：看護学研究科の構成図 注：文献5より作成

「子どもと家族の看護学分野」, 「成人看護学分野」, 「老年看護学分野」の3つの研究教育分野から構成される「実践看護学領域」では, 各ライフサイクル期にある対象の特性や健康問題の理解を基盤とし, これらの対象に対する看護援助の理論・方法に関するより高度な研究能力と実践能力を持つ人材を養成する。

健康看護学領域の「看護デザイン」というユニークな名称をもつ研究教育分野は, 看護学の新たな領域の創造をめざす本大学院独自の取り組みを象徴している。この新しい分野では, 地域社会において療養生活や日常生活を営んでいるさまざまな対象の健康問題にたいして, 新たな看護をデザインすることができる知見を明らかにし, 看護において有効なアセスメント, 診断, 実践, 有効な看護技術, 環境調整, 評価の方法を開発することを目的としている。

具体的には, 看護固有の諸問題にたいして, 科学的・理論的根拠をもった学際的なアプローチによって, 有効なアセスメントツールの開発, 対象の生命力を高め生活を支援するケアの方法や技術, 実用的な用具や機器の考案, より安全で安楽な療養環境・住環境の提案, デザインされた成果を適切に評価するツールなど, 新たな看護をデザインできる研究能力を育成する。

コミュニティケア分野, 子どもと家族の看護学分野, 成人看護学分野, 老年看護学分野では, あらゆる健康レベルと地域社会の場に応じた援助方法の研究, 各ライフサイクルに応じた看護ケアの

実践的な研究をめざす。また, コミュニティケア分野は日本看護協会が認定する「地域看護」の専門看護師, 子どもと家族の看護学分野は「小児看護」の専門看護師, 成人看護学分野は「がん看護」の専門看護師, 老年看護学分野は「老人看護」の専門看護師教育課程基準に対応した科目も開講している。17年度には「地域看護」と「老人看護」が日本看護系大学協議会による専門看護師教育課程の認定を得た。専門看護師教育課程の認定は, 当該課程修了予定の学生の在学が認定審査要件であるため, 要件を満たし次第, 「小児看護」, 「がん看護」についても認定申請の予定である。

表2には平成16年度までに認定された17大学院の専門看護師教育課程の設置状況を示した。また表3には, 平成17年3月現在の都道府県別の専門看護師登録者数を示した。これによれば, 専門看護師は大都市圏に偏在しており, 本県をはじめ日本海辺の県にはほとんど登録者がいないことが判かる。

表2: 専門看護師教育課程の設置状況 (H17年3月現在)

分野	課程数
がん看護	8
精神看護	7
成人看護(慢性)	3
家族看護	2
母性看護	7
感染看護	2
小児看護	7
地域看護	8
老人看護	11
クリティカルケア看護	5
合計	60

17大学院 60課程

注: 文献6より作成

表3: 都道府県別専門看護師登録者数 (H17年3月1日現在)

地区	分野	がん看護	精神看護	地域看護	老人看護	小児看護	母性看護	成人看護(慢性)	クリティカルケア	県別合計	地区別合計
											地区別合計
北海道・東北	宮城	1								1	1
	茨城	1	1							2	
関東・甲信越	千葉	1		1						2	55
	東京	13	10		1	4				28	
	神奈川	13	5			4		1		23	
	福井		1							1	
東海・北陸	静岡	3								3	6
	愛知					1				1	
	三重		1							1	
	滋賀				1			1		2	
近畿	大阪	7	1				1	1	4	14	28
	兵庫	2	3		1	1	2	1		10	
	和歌山	1	1							2	
	鳥根				1					1	
中国・四国	岡山						1			1	8
	広島			1						1	
	高知	2		1	1	1				5	
	佐賀				1					1	
九州	熊本		1							1	3
	沖縄		1							1	
	英国					1				1	
国外										1	1
分野別合計		44	25	3	6	12	4	4	4		102

\*記入のない都道府県は登録者なし

注: 文献7より作成

#### 4. 課題と展望

平成17年度に完成年度を迎えた本学の修士課程は、平成18年3月に9名に対して修士（看護学）の学位を授与する。また、その中には地域看護1名、老年看護2名の専門看護師教育課程基準に対応した科目を履修した修了生が含まれている。この3名が県内ではまだ誕生していない（18年3月現在）専門看護師の資格を得、県内の看護レベルの向上に寄与することを期待したい。

また、平成17年度末には修士課程から博士課程への課程変更申請が認可され、平成18年度からは、修士課程は博士前期課程と名称が変更される。博士後期課程は看護学領域の1領域構成で、定員3名であるが、北陸地区で最初の博士（看護学）が取得できる大学院であり、これによって本学は看護学の教育・研究機関としての組織を完成し、北陸地区での看護学研究の中核となる基盤を整えたといえる。特に、第1回の修士課程の修了者や学内の若手研究者数名が後期課程へ進学することになっており、石川県立看護大学の大学院は将来的に本学の研究・教育を担っていく人材を養成するのみではなく、全国の看護系大学や臨床・臨地現場にも優秀な研究者・専門職を供給することが期待されている。

今後は博士課程の前期、後期を問わず、その教育課程と内容の充実、強化に努めることが必要である。その具体的内容としては、まず研究指導を担当する教員の研究・教育能力の向上が第一の課題である。特に、博士課程の指導教員は勿論、博士課程を設置する大学の教員として、教育に関わる教員全員が博士号の所持者であることが望まれる。多忙を極める業務の中での学位取得は他の教員の協力なしでは不可能な場合が多いので、大学全体として教員の学位取得に関して明確なサポート体制をもつことが必要と思われる。また、大学全体で取り組むことができる特色ある研究課題を創ることも重要な課題の1つである。その際、専門看護師課程をもち高度な専門職業人の育成をもちめざす本大学院の目的を念頭に置くと、研究課題とその内容は臨床・臨地現場で有効性をもち得る、実践的な課題がよいと考える。

第二に、本学の新しい構想である「看護デザイン」、あるいは「看護デザイン科学」分野の一層の充実のために、実際の大学院教育、研究を通してより明確に分野そのものの理念、目的、内容等の構築とその明確化が図られなければならない。本学の独創的分野である「看護デザイン」分野の

充実には、本学大学院が看護学の将来に対して意義ある貢献をなすことができるかどうかの一つの試金石といってもよいであろう。

第三に、できる限り多く看護学分野の教育・研究分野を持つ総合的な大学院として、既存の教育分野に加えて新たな分野を導入することも課題の一つといえる。母性看護学分野、精神看護学分野などの大学院教育、専門看護師資格の取得を希望する学生に門戸を広げることができるような、人員配置、教員レベルの向上が望まれる。また、地域看護の専門看護師課程は将来、地域看護と在宅看護に分離されることが決定しているが、そうした状況に対応できる教育課程の再編も必要となるであろう。

さまざまな課題があるとはいえ、本学の大学院設置は現在まで順調に整備、発展してきた。それゆえ、途上にある本学大学院を設置当初の目的をめざし、計画に沿って、修正を加えながら、着実に完成へと至るように全学的に取り組むこと、それが本学教職員に課せられた最大の課題であり、発展の基礎である。

#### 引用・参考文献

- 1) 石川県：石川県看護大学基本構想策定委員会報告書、1996
- 2) 日本看護系大学協議会：平成17年度 日本看護系大学協議会名簿、2005
- 3) 厚生労働省医政局看護課：第6次看護職員需給見通しに関する検討会報告書、2005
- 4) 日本看護協会：「第六次看護職員需給見通し」達成に向けた本会の意見、2005  
(<http://www.nurse.or.jp/seisaku/opinion/2005/iken20051228.pdf>)
- 5) 石川県立看護大学：大学院学生便覧2004、2005
- 6) 日本看護協会：日本看護協会HP 専門看護師の教育、2006  
(<http://www.nurse.or.jp/nintei/cns/kyouiku.html>)
- 7) 日本看護協会：日本看護協会HP 専門看護師登録者、2006  
(<http://www.nurse.or.jp/nintei/cns/touroku.html>)
- 8) 大学基準協会 看護学教育委員会：看護学の大学院の基準設定に向けて、1996
- 9) 日本看護系大学協議会：平成16年度事業活動報告書、2005

## The Present Condition and an Overview of the Graduate School of Ishikawa Prefectural Nursing University

Katsuko KANAGAWA, Hiroshi ASAMI

### Abstract

This paper introduces the background leading to the opening of our graduate school, the process of its development and current status. In addition, our agenda and future prospects are presented.

The master's degree-granting program, established in April 2004, consists of 2 areas and 5 research fields—nursing design, community care, child and family nursing, adult nursing and geriatric nursing. Courses are also offered in 4 fields—community nursing, pediatric nursing, oncological nursing and geriatric nursing—that correspond to the educational standards for Certified Nurse Specialists and recognized by the Japanese Nursing Society.

Due to the changes in regulations concerning the courses leading to a doctoral degree and dated April 2006, the master's degree granting program automatically becomes a pre-doctoral course. Thus further research and enrichment of course contents are required in the master's degree programs. There are yet many objectives that require further refinement, e.g., improvements in the research and educational potentials of the faculty in charge of the students' research, selecting unique research subjects and reorganization of the program for Certified Nurse Specialists. In spite of a number of obstacles to overcome, a bright vista opens in the future for our graduate school if we make a concerted effort based on the philosophy that was stated at the founding of the school.

**Keywords** graduate school of nursing, increase in the number of graduate schools, nursing research, certified nurse specialist, nursing design